

ヒメトビウンカにおけるイネ縞葉枯病ウイルス保毒検定結果

表 2011年度ヒメトビウンカ(第1世代虫)におけるイネ縞葉枯病ウイルス保毒検定結果

調査地点(検定個体数)	保毒虫率(%)
加西市別府町(200)	0
加東市滝野町(150)	0.7
加東市社町(150)	0.7
西脇市黒田庄町(150)	0
多可町中区(150)	0
神河町(150)	0
宍粟市山崎町(150)	1.3
佐用町(150)	1.3
上郡町(200)	3.0
加古川市志方町(100)	0
平均	0.8

供試虫:2011年6月2日～6月8日にムギ栽培ほ場から採取した幼虫

検定:2011年6月6日～6月8日にラテックス凝集反応法により保毒の有無を検定
陽性反応個体数 / 総検定個体数

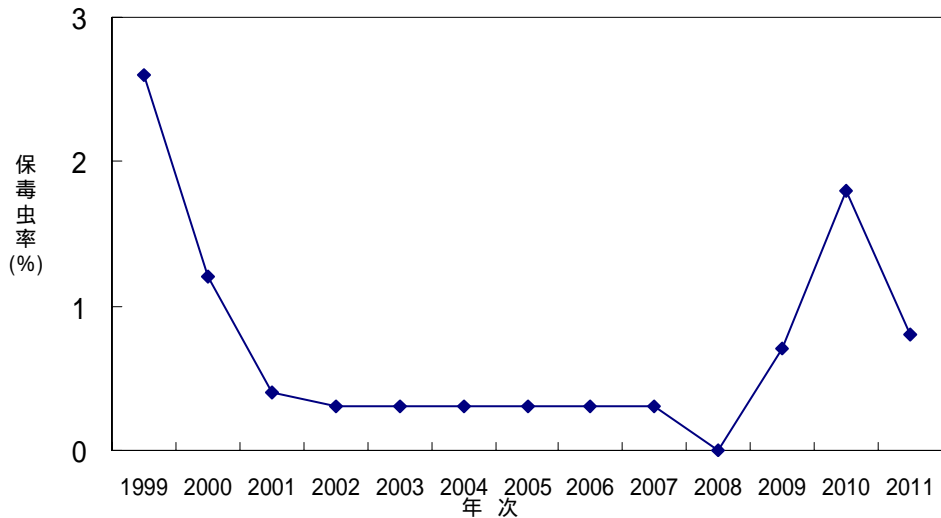


図 兵庫県内におけるヒメトビウンカ(第1世代虫)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率年次推移

本県におけるイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、1989年の14.1%をピークに減少傾向にあり2001年以降は0.5%以下の低いレベルで推移していたが、2009年から再び増加が見られ警戒を強めているところである。

本年の保毒虫率は最も高い地点で3%、県平均では0.8%となり昨年(1.8%)より減少した。しかしながら、5月のコムギほ場におけるヒメトビウンカの発生量は5.4頭/10回振と昨年(0.2頭/10回振)より多い状態にあり、本田における感染機会が増えると考えられるので十分注意する必要がある。